

リスク評価

食品に含まれる微生物や化学物質がヒトの健康に与えるリスクを、科学的知見に基づいて評価しています。リスク評価は、主にリスク管理機関からの要請を受けて行いますが、食品安全委員会が必要と判断したハザードについてもリスク評価（自ら評価）を行っています。

食品安全委員会には年間計画等を調査・審議している企画等専門調査会とハザードごとの専門調査会、そしてワーキンググループが設置されており、約200名の専門委員(大学・研究機関の研究者など。非常勤。)がそれぞれの専門分野に応じて、担当するハザードのリスク評価を行っています。

専門調査会

企画等専門調査会
添加物専門調査会
農薬第一専門調査会
農薬第二専門調査会
農薬第三専門調査会
農薬第四専門調査会
農薬第五専門調査会
動物用医薬品専門調査会

器具・容器包装専門調査会
汚染物質等専門調査会
微生物・ウイルス専門調査会
プリオン専門調査会
かび毒・自然毒等専門調査会
遺伝子組換え食品等専門調査会
新開発食品専門調査会
肥料・飼料等専門調査会

ワーキンググループ(WG)

栄養成分関連添加物WG
薬剤耐性菌に関するWG
評価技術企画WG
有機フッ素化合物 (PFAS) WG

専門調査会や
ワーキンググループに
関する情報はこちら。



※2024年7月現在

新たな評価方法等の活用に向けて

科学は進歩します。そのため、食品安全委員会が行っているリスク評価にも、科学の進歩に伴い、常に、新しい評価方法を取り入れていくことが必要です。

例えば、物質の構造に着目し、コンピューターを活用して毒性を類推する *in silico* 評価方法が開発されています。

食品安全委員会では、過去の膨大な試験データ等をもとに物質の構造からその毒性を予測する (Q)SAR や、数理モデルを用いて物質の毒性を解析するベンチマークドーズ法等の評価への活用を進めています。

◎食品安全委員会設立からの食品健康影響評価の実績 (2024年4月1日現在)

区分	評価終了件数	区分	評価終了件数
添加物(栄養成分添加物、香料を含む)	317	かび毒・自然毒	14
農薬	1259	遺伝子組換え食品等	368
動物用医薬品	657	新開発食品	94
器具・容器包装	23	肥料・飼料等	302
汚染物質	71	薬剤耐性菌	67
微生物・ウイルス	24	その他	8
プリオン	75	合計	3279

研究・調査

リスク評価を行うために必要なデータや情報を得るため、公募型委託研究と請負調査を実施しています。

研究等を実施するにあたっては、今後5年間に推進すべき研究・調査の方向性を明示した「食品の安全性の確保のための研究・調査の推進の方向性について」(ロードマップ)を策定し、研究・調査の計画的・戦略的实施をはかっています。加えて、毎年度、優先して実施すべき課題を決定しています。

◎食品健康影響評価技術研究

リスク評価やそのガイドライン策定などに必要な知見を得るために実施する研究です。

◎食品安全確保総合調査

リスク評価等を行うために必要な情報とデータの収集・整理・解析などを行います。